

(第4回) 沼田市地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

**日 時**

令和4年10月26日(水) 19:00~21:02

**場 所**

テラス沼田5階 Waltzホール(議場)

**出 席 者**

委 員 18名

※敬称略

・川端 富夫 ・山田 良美 ・倉澤 由之 ・田中 耕太郎  
・松井 弘樹 ・中村 一喜 ・田島 護 ・角田 祐子  
・齋藤 照恵 ・大嶋 康 ・伊藤 智康 ・佐藤 亜貴  
・地野 裕一 ・星野 盾 ・安原 和宏 ・信澤 毅  
・武井 秀一 ・角田 真由美

アドバイザー 1名

・櫻井 常矢

事務局 3名

・田邊 一樹 ・見城 俊彦 ・角田 好夫

**欠 席 者**

委 員 2名

※敬称略

・高田 式久 ・左部 ゆかり

事務局 1名

・織田澤 清子

**次 第**

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 協議事項
  - (1) 前回までのふりかえり
  - (2) 広域コミュニティと行政の役割  
テーマ①「広域コミュニティのあり方について」

テーマ②「行政の役割について

(人的支援、財政支援、その他必要な支援)」

4 その他

・次回（第5回）の会議日程

11月30日（水） 19:00～ 多目的スペース

・報告書（あり方ビジョン）の事前送付

報告書の原案を作成したら事前に送付するので、次回の委員会までに内容のチェックをお願いしたい。また、意見があれば委員会当日をお願いしたい。

5 閉会

### 3 協議事項

委員長	次第の3 協議事項(1)『前回までのふりかえり』について、事務局からの説明をお願いします。
事務局	<b>(資料「グループワーク(班別)」をもとに、前回はふりかえる)</b>
委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	<p>私がまとめた資料が、皆さまの手元に配ってあると思う。4つくらいにまとめてみた。</p> <p>まず1点目は、拠点のあり方である。これは、コミュニティセンターの役割である。例えば、なんでも相談できる相談窓口であってほしいとか、困りごとを持ち込める場であってほしいとかである。拠点のあり方は、地域づくりを進めるときに極めて重要である。私は、総務省で地域づくりの仕事をしているが、総務省で地域づくりの議論をするとき、必ず文部科学省を呼んでいる。理由は、全国の地域づくりの拠点であるのは公民館なので、必ず文部科学省に来ていただくというのがある。沼田市はコミュニティセンターと名称を変えているが、もとは公民館である。</p> <p>それから2点目は、実は前回に出ているが、「交流」とか「つながり」である。特に、区を越えた交流とか、町を越えた交流とか、世代を超えたとか、こういった意見である。それから、さっきベンチ、椅子の話が出ていたが、話し合いの場が必要だとか、自宅を開放するなんていう案も出ている。</p> <p>それから3点目は、情報発信である。単に情報発信するのではなく、ほかの町の取組みとか成功事例を発信し、そういったものを共有化したい。情報というのは、行政は意外と持っているが、市民同士が、地域同士が横に繋がって情報共有をするっていう仕組みが、日本は弱い。官が面倒見てきた国というのが理由である。行政のほうには情報は行くが、意外と市民側はつながっていない。だから、意外とほかでこんなことをやっているっていうと、うちと同じじゃないとか、意外とそういうことで、はっとすることであるが、こういったことが皆さんのご意見で出ている。あとは、若い世代に発信するときの情報のツール、方法、手段が違うと思う。SNS、こういったものを使った発信方法じゃないかということである。</p> <p>最後4点目は、皆さんから出された意見でいいなと思った、コーディネーターの必要性である。コーディネーターっていうのは、いわゆるつながり、調整したり、ほかの地域の情報を持ってきたりするわけだが、資料に発表会の企画って書いてあるのは、例えば同じ地域の中でも、民生委員さんたちがこういう苦勞をしているんだとか、自主防災組織ってこういうことをやっているんだとか、名前は知っているけれど、お互い</p>

	<p>何やっているかはよくわからない、こういうケースって多いわけである。一番知って欲しいのは、苦勞である。民生委員さんとかが、こういう苦勞をしているんだとか、そういうことすら、地元の会長さんも意外と知らなかったりする。会長も、1年、2年の任期で着任するから、名前は聞いたことあるけれど、中身はわからない。この発表会は、地域内での発表会であり、こういったものを企画すると、地域に必要な情報をよそからつないでくる。こういった意味で、皆さんの意見からあった、コーディネーターの必要性が、まとめとしてあるかなと思った。</p> <p>4つにまとめるっていうことが正しいかどうかかわからないが、私が前回のまとめを何度も読み返した中で、こんな風に感じたところである。この後の話しでも関わるが、非常に重要なポイントが出されたなっていう感じがするので、前回の意見はとてもよかったなということ、まとめながら感じた次第である。</p>
委員長	次に、検討委員会での議論をまとめた報告書について、これまでに 出た意見を入れた、委員の皆さまがイメージできるような形を、事務局から提案していただきたいと思う。
事務局	<b><u>（資料「沼田市地域コミュニティのあり方ビジョン（案）」をもとに、報告書の骨格を提案する）</u></b>
委員長	質問があれば、挙手にてお願いしたい。 <b><u>【特になし】</u></b>
委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	<p>今、事務局から説明いただいたとおりだと思う。</p> <p>沼田市の市民の皆さん、それから行政の管理職の皆さんは、市が行政として行ってきた、こういった委員会の進め方であるが、少し今までとは具合が違うのかなと感じている思う。つまり、原案なしで白紙でのこういった委員会であるが、こうして皆さんの意見を積み上げていき、最終的には立派な報告書になっていくと思う。先程事務局から説明があったとおり、今は箇条書きになっているが、これが文書化されていくことで、内容的には盛り込まれていき、十分必要なものも盛り込まれている感じがしている。そういった会議の進め方も、非常に事務局が丁寧であったということが1点、それともう一つだけ、せっかくの機会なのでお伝えする。</p> <p>やはり今回の委員会というものは、最初から委員会ありきではない。実践があつて委員会があるので、1回目の池田とか地域の発表があつたように、既に積み上げてきているものがあるので、特に市民の委員の皆さんは、実感をもって、こういったことを意味しているんだなっていうことが、なんとなく感覚として分かっており、雲を掴むような話しではない。実践があつて制度ができる、実践があつて仕組みができる。やはりこれからの行政の仕組みづくりは、変</p>

わっていくべきではないかなという議論が、委員会でスムーズに進んでおり、私自身はとても感激して、毎回見させていただいている。

一点だけ、最後の6ページ目であるが、今日は行政支援の話をするということで、既にグリーンの文字で前回の意見の中に、それに関わるものがあった。また、先程の私の資料で、前回のまとめを4つに絞らせてもらったが、実はこの4つの“■”であるが、これを統合した施設がある。皆さんは耳慣れないと思うが、皆さんの手元資料にもあり、全国共通には、中間支援施設と言っている。この建物にある、沼田市市民活動センターがそうである。ちょっと手前味噌であるが、私が10年以上前、沼田市に通い担当職員と一緒に、このセンターを立ち上げた。しかし、10年ぶりにここにやってきて、私が見た市民活動センターは、ちょっとイメージしていたものとは違うかなという感じがあった。ただ、皆さんも一生懸命やられているが、まずはやっぱり中間支援施設というのは、情報の拠点。ここに来れば、沼田市内の地域づくりの事情が分かる、あるいは全国の事例が分かるっていうことである。それと今、沼田市の市民活動センターは、日本全体の動きから、少しずつきているが、地域に継続的に寄り添う、つまり、施設で待っている時代ではないということである。資料にアウトリーチって書いてるように、アウトリーチってというのは、こちらから出て行って、地域側に寄り添うっていう手法であるが、こういったものが今、全国に段々段々増えてきている。要するに、10年という時を経て、こういう中間支援施設ってものの役割が、ちょっと変わってきている。なぜ変わったかって言ったら理由は簡単、高齢化、人口減少である。これが、ここ10年、15年で一気に進んでしまったが、こういった施設をもうちょっと機能的に使っていくべきだということで、地域に寄り添う役割っていうことが、凄く求められている。

それから、さっきコーディネーターって話が出ていた。沼田市では、コミュニティセンターの職員が、コーディネーターになっている。ただ、コミュニティセンターの職員といっても、4月の人事異動で配属されるわけだから、はっきり言うが、ど素人である。どんな風にサポートしたらいいかなんてわからない。1年、2年積み上げていく中で、なんとなく地域ってこうやって寄り添うのかなって感じると思う。しかし今は、そういうコーディネーターの皆さんに、もっと活躍していただきたいので、コーディネーターをサポートする、私は自分の本の中で、コーディネーターをコーディネートするって言っているが、要するにコミュニティセンターの職員も、ここに相談に来られるような体制の整備が必要である。どうしても公務員の世界は人事異動があるので、継続的なコミュニティ支援が苦手である。だいたい慣れてきたかなっていうときに異動である。コミュニティはずっと続くわけなので、慣れもへったくれもない。そういった意味では、やはりこういった施設を民間が運営し

	<p>て、その民間のノウハウに市役所の職員の皆さんも学びながら、展開していく。こういった流れが、全国に非常に増えてきているという状況がある。沼田市は群馬県内でも、市民活動センターを立ち上げた自治体としては、かなり先駆けである。群馬県内では、一部自治体にはあるが、時期的には沼田市はかなり先駆けて、こういったものをきちんと整備した。そういった先駆けの意味で、時代のニーズに合う、そういった中間支援施設、市民活動センターのあり方も、今後の検討課題としてあげていっても良いのではないかと考える。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、協議事項（２）『広域コミュニティと行政の役割』について、ここからの進行は、櫻井アドバイザーをお願いしたい。</p>
<p>アドバイザー</p>	<p><b>協議事項（２）『広域コミュニティと行政の役割』</b></p> <p><b>テーマ①「広域コミュニティのあり方について」</b></p> <p><b>テーマ②「行政の役割について</b> <b>（人的支援、財政支援、その他必要な支援）」</b></p> <p>※冒頭、資料「行政の役割について」により、事務局から説明。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><u>櫻井アドバイザーからの補足</u></p> <p>①は、よりそい隊という名前になっているが、さっき事務局からも話があったように、いわゆる人的な支援、人の支援になる。それから②として、財政支援。そして③として、拠点。だいたいこのような3点セットで、コミュニティのサポートを行政としては行っていると思う。特によりそい隊については、私も色々な自治体へ行くが、何度もお話ししたことがあるかもしれないが、非常に柔軟に職員の皆さんが協力してくれて、自主的・自発的な対応として、やっていただいている。他の自治体では、手当等の関係から反対があったりするが、沼田市の場合は、そのようにならない。この辺については、委員でいらっしゃる利南とか池田とか薄根とか、あるいは川田のモデル地域の4地区、動いている地域から来ている委員の皆さまは馴染みのよりそい隊だと思うが、沼田市の誇る取組みなので、是非皆さまにも知っていただきたいと思う。</p> <p>また財政支援のところであるが、令和4年度が20万円交付で、令和5年度以降は、設立準備に要する経費ということなので、今皆さんで議論しているコミュニティのあり方というものに基づいて、次年度以降、行政がもう少しきちんと公的な形で応援していくというような体制整備が、更に強くなっていくと読み取ることもできる。</p> </div>

※5つのグループに分かれて、意見交換を行った。  
意見交換の際に付箋に書き出した意見を分類の上、別紙に掲載。

1 前回のまとめから、特に印象に残ったこと  
気づいたこと

コーディネーターという意見が多かったようであるが、人的な支援は大事である。行政の方も実感されるだろうし、地域の方もわかると思うが、今までは補助金を配布して回してきた部分がある。しかし、今はお金をもらってもやる人がいないとか、意外と財政支援策が効果発揮しない時代になってきてしまっていて、今何が必要かっていったら、寄り添う人、人っていう声が一番多い。全国調査をやっても、そのような声が多い。支えてもらう人だけではなくて、一緒に取り組んでくれる仲間、やはり時代状況が変わってくる中で、地域が求めるものも変わってきているということに、行政の仕組みとしても柔軟に対応していかななくてはならないのかなと思う。

2 人口減少対策としての広域コミュニティ  
(小学校区)  
取り組む上で大切にすべきことは何か  
具体的方法、知恵・工夫、配慮点 など

3 「市民の自立した地域づくり」を進めるため  
行政はどのような支援をすべきなのか  
具体的取組、配慮点、寄り添い方 など

グループ 1

**【グループ発表】**

まず青い付箋であるが、だいたい3つに意見が分かれた。そのうちの2つということで、年代を超えた、人材を確保するという人材の絡みである。

一つは、話し合いの中から出たが、色々なことに手を出せる世代

を幅広く探す必要があるんじゃないかということである。あとは、子育て世代も入っていたらいいが、厳しい実情がある。ある程度、子どもが大きくなってきて、育成会に顔を出さなくちゃならないとか、地域と絡むような状況が生まれてきてからでないと、なかなか厳しいんじゃないかということで、一つ選ばせていただいた。

それからもう一つは、問題の共有化、これがあげられた。正確に地域で抱えている問題を皆が理解して、それを共有することが重要だということで、これを選ばせていただいた。

ピンクのほうの紙であるが、コミセンのレベルアップということでご指摘をいただいた。これは、人材の派遣とか色々なデータの取りまとめと、それを発信することを望みたいという中で、やはりコミセンのレベルアップが重要だろうということで選ばれた。

もう一つが、お金、財政面、財政支援、みんなお金のことであるが、より具体的に必要な部分に対する財政の確保、これを選ばせていただいた。

グループ 2

#### **【グループ発表】**

初めのほうの課題であるが、まず集まる口実を作ってもらい集まってもらって、そしてその中で意見を出してもらってということで、幅広いところから意見を出してもらって、新しい仕組みが必要であると思う。

そして、具体的な取組、配慮点、寄り添い方などをどのようにとということであるが、結果を出す、勉強である。そして、この事業というのは継続していくものだと思うので、役として、結局何もできなかったというような敗北感を感じると、こういう仕事は続いていかないということで結論に達した。

グループ 3

#### **【グループ発表】**

青い付箋の部分は、誰でも参加できるように、年齢とか、子どもとか、性別とか、そういうところを度外視して、色々な人が出てこられるような行事だとか会議だとか、そういうものが目的になる。その中で、子ども会議をしたらどうかとか、幅広い年齢層の意見を吸い上げるためのシステムができるかという話があった。あとは、住民でなくても、在勤の人でも取り込んでいって、色々な人の意見を聞けるといいのではないかっていうところであった。

次は、役割分担を軽くする、軽くしすぎると役ではなくなってしまうので大変であるが、分散させたり、役員1人のところを3人くらいに分けるとか、そんなことをしていったらいいのではないかという話が出た。

次ピンクであるが、まず女性だけの自主組織を作るっていう意見が出た。やはり、女性目線というのは大きいのかなと。家庭でも地域でも女



	<p>性は強いよってという声が出た。そんなところで、女性目線の意見を吸い上げるような仕組みができるといいということであった。</p> <p>それから、支援相談窓口を一本化するということで、行政もそうであるが、市役所も困ったときの市役所ということで、あまりたらい回しにしないで、できないとか知らないとか言わないで、まずは一緒に考えましょうということで、頑張る職員になりたいというところである。</p>
グループ 4	<p><b>【グループ発表】</b></p> <p>一つ目は、人任せにしないということに“○”を付けさせてもらった。それから情報発信、ほかの班にも出ているが、活動内容の透明性を維持しながら、情報発信を早くするというところに“○”を付けた。</p> <p>ピンクの方は、行政にやって欲しいこと、口は出さずにご褒美を出す、これはお金じゃなくてもいいよってということで、褒めてもらう、承認欲求を満たしてもらうということに繋がっていき、それぞれの地域のプライドになっていくということである。それから、地域住民をコーディネーターに育成するための仕組みづくりをきちんとして欲しい、自立しますよってということで提案があった。</p>
グループ 5	<p><b>【グループ発表】</b></p> <p>まず青の付箋であるが、役割を整理するというところで、役がいっぱいあって、それがまた市とのつながりとかあるので、その辺を整理していかないと、これからの人口減に対応できないというような話しが出た。</p> <p>あとは森林文化であり、沼田は森林文化が中心になっている部分があるが、ただ林や森が枯れちゃって獣の住処になっている。それをするには下草刈りをするなり、そういったことをやはり行政としても取り組んだりしていただきたいと思う。</p> <p>ピンクのほうは、人との交流の場を持ちたい。人が交流することによって、地域の活性化につながってくる。それに援助していただきたい。要するに、何かしらするときの財源が欲しいということである。色々な自治会も課題をもっていると思うが、市としての方針、沼田市としては地域づくりにはこういった人をお願いしたいというようなものを示す。その中から、うちの自治体はこれはできるけれどこれはできないとか、自治体の独自性を持てればという話しがあった。</p>
アドバイザー	<p>奥のテーブルで、住民がコーディネーターになるってという話しがあって、ほかのテーブルは比較的行政の職員がコーディネーターをやるっていう位置づけだったと思う。それはそれでいいと思うが、住民がコーディネーターをやるってというのは、なかなか面白い発想だなと思ひ、実は日本各地にも増えてきている。例えば、ある市では、私が講演に行くと、テーブルには市民の方がファシリテーターとして入ってくる。これ市民ファシリテーターってその市ではいう</p>

が、市民ファシリテーターが市内に何十人もいる。それは、空いた時間をみて、今日は講師がここに来るらしいぞっていう話しをすると手伝いに来てくれる。ですから、行政でも住民でも担えるかなということ、現実の問題としてある。ただ、それを育てる仕組みっていうと、みんな普通に働いている人だから、ノウハウがない。やはり、そういう人たちを養成していくような仕組みが大事かなと思う。

そのことに関わって2点目は、第1回の時にも言ったかもしれないが、人材を育てるっていうことである。やはり今までは、第1次地方創生では、人口減少対策と言っていたが、これからは人口減少対策ではなくて、人材をどう増やしていくかである。人口は減るが、人材は増えるっていうようなまちづくりをしていくことが、各地が追求していることかなって感じがする。これは、行政の職員の皆さん、あるいは市民の皆さんも目を閉じて考えると、人を育てるっていうことを行政として、あるいは地域として本気でやってきたかなって思うと、やってきたとは思うんだけど、なんとなく自然に次の担い手って育てていた時代があり、その自然に人が育つっていうことが、成り立たなくなってきたという中で、人を育てるっていうことを“あえて”やらなくてはならない。しかし、育ててこなかったから、そういうノウハウがない。だから、行政が講師を呼んできて、講演して、育てましたっていうように、ならざるをえなくなったり、色々悩んでいるとは思いますが、人材を育てる、人を育てるノウハウが、行政にも地域にも必要になってきているのだと思う。今日皆さんの意見の中にそういうものがいっぱいあって、どうやって人口を増やせばなんて話しはなくて、そっちのほうに話しが集中していたことも非常に印象的だったと思う。

委員長

本日予定された協議事項については、これで全て終了した。事務局にお返りする。